TOEIC®Test学習ソフト実力UP編
TOEIC®Test学習ソフト完全制覇編

共通ユーザーズガイド

TOEICはエデュケーショナル・テスティング・サービス(ETS)の登録商標です。この印刷物(あるいは製品)はETSまたはザ・チョーンシー・グループ・インターナショナル・リミテッドの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

TOEICプログラムはエデュケーショナル・テスティング・サービスの子会社であるザ・チョーンシー・グループ・インターナショナル・リミテッドにより管理・運営されています。

ご注意

(1) 本ソフトウェアに関する権利は全てTDK株式会社に帰属します。
(2) 本マニュアルはTDK株式会社のマニュアルに基づき、TDK株式会社のご協力を得てカシオ計算機で編集したものです。内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本マニュアルの内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
(5) 本マニュアルは、本機(CASSIOPEIA l'agenda)の基本的な操作(ボタン操作や画面上の操作など)をマスターされていることを前提に制作しております。本機の基本操作については、付属の取扱説明書を参照してください。
(6) 本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

・ **本書はお読みになった後も大切に保管してください。**

目次

■「TOEIC Test」について 3
「TOEIC Test」とは？ 3
トータル・スコアと問題別正答率 4
点数表示 5
ListeningセクションとReadingセクション 7
Listeningセクションの特色 8
Readingセクションの特色 11
英語能力測定法 12
点数評価基準 12
インタビューテスト 13
■ 本ソフトの使いかた 16
本ソフトを起動するには 16
本ソフトの構成 17
学習をはじめよう 19
各画面上でのl'agenda本体ボタン操作について 25
本ソフトの各種設定 28

■「TOEIC Test」について

「TOEIC Test」とは？

TOEICは、Test of English for International Communication（国際コミュニケーション英語能力テスト）という正式名称から作られた略称で、「トーイック」と発音します。

TOEIC Testの問題作成および採点は、アメリカのニュージャージー州プリンストン（Princeton, New Jersey）に本拠を持つ世界最大のテスト開発制作の公共機構ETS（Educational Testing Service）が行っています。

非営利の法人であるETSは1947年に設立され、現在、各種教育専門家、統計学者、心理学者などの内部スタッフを約3,000人、外部専門スタッフを約800人擁しています。

ETSで開発され、実施されているテストの中で有名なものには、「全米大学入学共通試験（SAT）」、「大学院入学共通試験（GRE）」「経営大学院入学試験（GMAT）」などがあります。
その他、アメリカ・カナダの大学に留学する際に受験を求められる試験であるTOEFL（トーフル Test of English as a Foreign Language）は、世界170ヶ国以上で実施されている英語能力テストです。

TOEFLは全世界で利用され、評価基準も安定しているすぐれた試験ですが、留学以外の目的で使う場合には多少無理が起こります。というのは、TOEFLはあくまでもアメリカ・カナダでの、就学における英語能力に焦点を当てているからです。

つまり、英語を母国語としない学生が、アメリカ・カナダの大学で英語による就学の力があるか否かを見ることを目的としています。
したがって、測定の範囲は比較的高いレベルになっており、特に初期学習段階の英語能力を測定できるようには設計されていません。

なんとか初期段階の学習者も、高レベルの学習者と同じように英語の力を測れて、しかもアメリカ・カナダの大学における就学能力測定のためというのではなく、国籍、職業を問わず全世界すべての人を対象に、英語によるコミュニケーション能力を測れる能力テストが開発される必要がありました。

そこで開発されたのがTOEIC Testです。
TOEIC Testも世界共通の試験として、広く全世界で実施されています。
TOEIC Testを利用することで、世界中の人々が同一の尺度で英語によるコミュニケーション能力を測定することができるのです。

トータル・スコアと問題別正答率

TOEIC Testは、4つのパートから成るListeningセクションと、3つパートのReadingセクションから成り立っています。
そのそれぞれの問題に対して、どれくらいの得点者が、どれくらいの正しい答を出しているのでしょうか。
当然のことながら、トータル・スコアの高い人はまんべんなく高点を取っていますが、トータル・スコアが低くなるにつれて、問題による出来不出来が目立つようになります。

下表は、第39回TOEIC Testの分析の結果に基づいて、Listening 4パート、Reading 3パートの合計7パートの問題について、その正答率を調べたものです。

トータルスコアと問題別の正答率

トータル・スコア	Listening				Reading		
	写真描写	応答	会話	説明文	文法・語彙	誤文訂正	読解
400	61%	51%	32%	33%	53%	48%	41%
500	73%	59%	39%	40%	63%	53%	51%
600	78%	69%	49%	48%	72%	63%	61%
700	85%	79%	59%	55%	79%	73%	72%

早稲田大学紀要「人間科学研究」第 3 巻第 1 号1990年
A Practical Criterion For Measuring English Proficiency - By Yukio Saegusa
日本題「英語能力測定の実用的方法」(三枝幸夫教授)より抜粋

トータル・スコアは400、500、600、700点の4種類に分けてありますので、それぞれの得点者の正答率配分がわかります。
ただし、これはあくまでも類型ですから、個々の受験者に必ず当てはまる数字というわけではありません。ひとつの目安として考えてください。

この表からすぐわかることは、どの問題がやさしく、どの問題がむずかしいかということです。
Listeningセクションでは、最初の写真描写問題が一番正答率が高くなっています。
次にやさしいのが応答問題ですが、前の写真描写問題と比べるとだいぶむずかしくなっていることがわかります。そのため各得点層ごとに点差が目立ってきています。
これはもちろん、目と耳を使って英語を理解する場合と、耳だけで理解しなければならない場合との差です。

ちなみに写真描写問題について、ちょっと述べておきます。
この問題は400～700点の全得点者が60%以上の正答率を示していますが、いくらこの問題がやさしいからといって受験者全員がこの問題に高い正答率を示すということではありません。
トータル・スコアが400点以下の場合、たとえば100、200、300点の受験者の場合には、この問題にも点差が出てくるようになるのは当然です。

最後の会話問題と説明文問題は、前の写真描写問題と応答問題と比べると格段にむずかしくなっていることがわかります。したがって、ここでまた各得点層ごとに点差がつくことがわかります。さらに会話問題と説明文問題とを比較すると、説明文問題のほうがわずかにむずかしくなっています。
いずれにしても、Listeningテストは、最初の問題が一番やさしく、うしろへ行くに従って次第にむずかしくなっていることがわかります。

Readingテストは、最初の文法・語彙問題がやさしく、読解問題、誤文訂正問題がむずかしくなっています。

ただし、一番正答率の高い読解問題でも、Listeningテストの写真描写問題のようには高い正答率になっていないことがわかります。

点数表示

TOEIC Testには受験に際して何級とか、評価方法に合格、不合格という方法はとっていません。
テストはListeningとReadingの2種類から成り、それぞれのセクションスコアは、点数で表示され、2つのセクション・スコアを合計したものがトータル・スコアです。
たとえば、Listeningスコアが230点で、Readingスコアが250点だとすれば、トータル・スコアは480点となります。

セクション・スコアはそれぞれ最低点が5点、最高点が495点で、5点単位で点数が変化していきます。122点、353点という数字はありません。したがって、トータル・スコアは最低点が10点、最高点が990点となります。

TOEICスコアは各個人が自分の英語能力を知る上でも大切なものです。しかし、それと同時に、たとえば企業側、学校側から見れば、どの社員が海外勤務に必要な能力に達しているか、またどの学生が十分な学習効果を上げているかを知ることが最大の関心事です。その点から見ると、TOEIC Testの点数表示は目的に応じて無限の利用価値があるといえましょう。

点数表示は、それだけでは自分がどれだけの英語能力があるのかわかりません。
どのスコアがどのように社会的に評価されるのか、どのスコアを取れば満足していいのか、どのスコアの社員なら海外駐在をさせても無理がないのかを知る必要があります。

TOEIC運営委員会では、スコアの評価基準に関して、下表のガイドラインを出しています。

TOEICスコアとコミュニケーション能力レベルとの相関表

レベル	TOEIC スコア	評価(ガイドライン)
A	860	Non-nativeとして十分なコミュニケーションができる。自己の経験の範囲内では、専門外の分野の話題に対しても十分な理解とふさわしい表現ができる。Native speakerの域には一歩隔たりがあるとはいえ、語彙・文法・構文のいずれをも正確に把握し、流暢に駆使する力を持っている。
B	730	どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている。通常会話は完全に理解でき、応答もはやい。話題が特定分野にわたっても、対応できる力を持っている。業務上も大きな支障はない。正確さと流暢さに個人差があり、文法・構文上の誤りが見受けられる場合もあるが、意志疎通を妨げるほどではない。
C	470	日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる。通常会話であれば、要点を理解し、応答にも支障はない。複雑な場面における的確な対応や意志疎通になると、巧拙の差が見られる。基本的な文法・構文は身についており、表現力の不足はあっても、ともかく自己の意志を伝える語彙を備えている。
D	220	通常会話で最小限のコミュニケーションができる。ゆっくり話してもらうか、繰り返しや言い換えをしてもらえば、簡単な会話は理解できる。身近な話題であれば、応答も可能である。語彙・文法・構文ともに不十分なところは多いが、相手がNon-nativeに特別な配慮をしてくれる場合には、意志疎通を図ることができる。
E		コミュニケーションができるまでに至っていない。単純な会話をゆっくり話してもらっても、部分的にしか理解できない。断片的に単語を並べる程度で、実質的な意志疎通の役には立たない。

Listeningセクションと Readingセクション

TOEIC Testは100問のListeningセクション、100問のReadingセクションの合計200問から構成されています。
その特徴を挙げると、次の通りです。

使用言語はすべて英語

テスト前の受験説明を除いて、問題の指示、説明などはすべて英語で行なわれます。
日本語は、一切用いられません。
したがって、英語による問題の指示、説明がわからないために、自分の力を発揮できないというようなことのないように、事前に設問解答方法には充分慣れておくようにしてください。
TOEIC Testの設問は大きく分けて7つのパートから成り、解答方法が変わることはありません。

英文和訳、和文英訳はない

テストはすべて英語で行なわれますから、当然のことながら英文和訳、和文英訳といった日本語を介在した問題は1問も出題されません。
よく「英語で考える」と言われますが、TOEIC Testには日本語が全くありませんので、英語で考えざるを得ません。
少なくとも、日本語ができることはTOEIC Testのスコアに何らの影響も与えません。
アメリカ人でも、帰国子女でも、学校教育だけを受けた日本人でも、TOEIC Testは英語によるコミュニケーション能力だけを客観的に測定します。

発音問題はない

日本では、英語のテストというと発音問題が重要な位置を占めていますが、TOEIC Testに発音問題はありません。発音とかアクセントの位置とかは、すべてListeningの一部にすぎないと考えるためです。
たとえば、He's riding a horse.という英語を聞いて、He's riding a house.だと思ったら意味は全くわかりませんが、実際はこんな聞き違いをすることはありません。
発音は手段であって目的ではなく、意味の伝達を第一義とすれば、発音は第二義的な存在です。

マークシート方式による解答

TOEIC Testは解答用紙のマーク欄を黒く塗りつぶすマークシート方式をとっています。
TOEIC Testの出題はListeningとReadingのみで、SpeakingとWritingの試験はありません。
これはもちろん、SpeakingやWritingといった主観テストをしなくても適正な能力評価ができるという調査分析を充分にした上でのことです。

使用英語は日常使われる英語

日本の学校における入学試験などには、どちらかというと、社会科学やエッセーといったような知的要素をふんだんに盛り込んだ英文が使われる傾向がありますが、TOEIC Testの英文にはこのような内容のものはありません。また、その国独自の文化的背景や言い方を知らなければ解答できないような問題は排除されています。日常的に耳にしたり、目にしたりするものが問題として使われます。ですから、ある意味で、学校で習う英語と比べるとはるかにやさしいという感じを受ける方もいるでしょう。

最大難関はスピード

TOEIC Testは日常生活で使われる英語を扱っているので、特殊な専門用語等の知識は一切必要ありません。また、ビジネスを背景とした設問が出題されますが、特にビジネス経験のない方でも解答できるよう配慮されています。

普通、英米人の話すスピードは毎分150語とされています。

また、読むスピードは毎分250語と言われています。

TOEIC Testを受験するためには、Listeningテストも、Readingテストも大体毎分150語のスピードで聞いたり、読んだりできるようにしておく必要があります。

Listeningセクションの特色

Listeningセクションは、次の4種類に分かれています。

Part1 写真描写問題（one picture）20問
Part2 応答問題（question - response）30問
Part3 会話問題（short conversation）30問
Part4 説明文問題（short talks）20問

合計100問 45分間

Part1 写真描写問題

1枚の写真に対して短い英語の描写文が4つ読まれます。

その中から正しい描写文を1つ選ぶ問題です。

描写文はいずれも短文で、まず写真を見ることで、これで大体のインフォメーションを得ることができるでしょう。

4つの描写文を聞くときには、この写真を見て、それぞれの描写文のうちどれが一番適切に写真を描写しているかをチェックするわけです。

4つの描写文を全部聞いてから解答しようとすると、記憶が薄れて混同する恐れがありますから、必ず1文ずつチェックしておかなければなりません。

ただし、思い違いを避けるため、正解と思われるものを途中で聞いた場合でも、一応全部を聞いた上で解答するようにしてください。

写真描写問題は英語を聞いた後、瞬間的判断をすることができるかどうかを見るためのテストです。日常会話にこの瞬間的判断の能力は欠かせません。
写真を見ながら描写文を聞くので、視覚と聴覚の両方を使うことができ、そのため最も解答しやすいListeningの問題と言うことができます。

Part2 応答問題
これはテープの英文を聞いて、それに対する3つの応答の中から正しいものを1つ選ぶ問題です。

3つの応答はすべて英語で行なわれます。
たとえば、最初の英文がHow are you?で、
(A) I am fine, thank you.
(B) I am in the living room.
(C) My name is John.
が3つの応答だとしますと、How are you?に対して最も適切な応答は(A)ですから、(A)が正解となります。

前の写真描写問題と違って、これは聴覚だけを使って英語を判断する問題ですから、それだけむずかしくなっています。

解答する場合に大切なことは、最初の英文を聞いたら、その応答を一応予想しておくことです。前の例で言えば、How are you?と聞いたら、その意味を理解するだけではなく、I am fine.、Fine.、OK.、またはI don't feel well today.などの英語を予想しておくと解答が非常に楽になります。

日常会話では、写真描写問題で要求される瞬時の理解と同時に、この応答問題で要求される瞬時の反応、つまり即応性が非常に重要です。
即応性というのは、ListeningとSpeakingのどちらの分野に属すかというと、むしろSpeakingの分野です。
その意味では、ここから一見Listeningテストをしているように見えて、その実Speaking能力もテストされていることがわかります。

Part3 会話問題
これはテープの会話を聞いて、問題用紙に書かれたその会話に関する設問に答えるという形式の問題です。

会話は2人の人物の間で行なわれ、その時間は10秒程度ですから、アッという間に終わってしまいます。
会話のスピードについて行くと同時に会話の行なわれている場面、2人の人物の関係、話の内容の3点を素速く、的確につかまなければならず、なかなかの難問です。

日常会話では、あらかじめ会話の方向はわかっているのが普通ですが、このテストでは会話の場面すらわかりません。ちょうど電車の中で見知らぬ2人の会話を聞くようなもので、なかなか骨が折れます。しかも会話時間が約10秒というのですから、集中して聞かなければなりません。

解答する場合のコツは、会話を聞く前の1、2秒で、問題用紙の質問と4つの解答の英文をさっと読んで、会話を聞く際、特に注意を払う点をつかんでおくことです。この準備なしに会話を聞くと、ばく然と全体の意味はわかっても、解答ができないということが起こります。
設問を素早く読むという意味では、速読の力も要求される問題です。

Part4 説明文問題
これは前の問題と違って、機内放送、ホテル内放送などのような説明文を聞いて、2〜4種類の設問に答える問題です。説明文は15〜30秒ぐらい続きますから、かなり分量があります。

1つの説明文に対して、2〜3問の複数の設問が用意されています。したがって、説明文自体は8種類ぐらいしかありませんが、設問は合計20問あります。

この問題も会話問題同様、説明文を聞く前にサッと設問を読んでおくと解答に有利です。
ただし、問題によって設問数が異なりますし、何問質問されるかは説明文を読まれる直前の指示で初めてわかるために、時間的な余裕はほとんどありません。
その2秒程度のわずかな間に、質問と2〜4セット分の4つの解答を読み終えることは不可能です。サッとながめるくらいの時間しかありません。
それでも、見ておくのと、見ておかないのとでは大変な差があります。
特に、解答に数字が並んでいる場合には、テープを聞くときに数字に注意して聞くようにすれば、解答がしやすくなります。

Readingセクションの特色

Readingセクションは、次の3種類に分かれています。

Part5 文法・語彙問題（incomplete sentences）40問
Part6 誤文訂正問題（error recognition）20問
Part7 読解問題（reading comprehension）40問

合計100問 75分間

Part5 文法・語彙問題

これはいわゆる穴埋め問題です。英文の一部に空白があって、そこに入れるための語句が4つ示されています。この中から最も適切な正しい語句を1つ選ぶ問題です。
問題の内容は大きく2種類に分かれます。
そのひとつは語彙問題、他のひとつは文法問題です。
語彙は、たとえば、misplaced、displaced、replaced、placedとか、look、stare、glance、observeのように、それぞれの語義をシッカリつかんでいるかどうかを見る問題です。
もうひとつの文法問題は主語と動詞の一致、動詞の時制、前置詞、接続詞などが扱われています。

たとえば、
Welcome ----- Rome.
とあって選択肢がin、at、to、ofであれば、正解はtoとなります。

Part6 誤文訂正問題

英文のそれぞれに4か所の下線部分があり、そのうちどれが間違っているかを指摘する問題です。この問題も前の文法・語彙問題と同様に、単に英語を理解するというだけでは正解はなかなか得られません。
たとえば、
I look forward to (A) meet you (B) at (C) your (D) earliest convenience.
という文では慣用表現が2つ含まれています。

ひとつはlook forward to（名詞or動名詞）で、他はat your earliest convenienceです。
したがって、文中の(A)はmeetではなく動名詞のmeetingとなるべきです。よって、これが誤りということになります。

Part7 読解問題

ここでは、新聞や雑誌の記事、ビジネス書類、広告、通知文などが提示されます。
この問題は大きく2種類に分けることができます。その一つは、表等を見てその内容を読み取る問題であり、もう一つは、ある程度の長さの英文を読んで理解する問題です。
それぞれの問題に対して、2～4種類の設問が印刷されています。したがって、表と英文は約15題、それに対する設問の数は全部で40問あります。

英語能力測定法

言語の運用能力は聞く力（Listening）、話す力（Speaking）、読む力（Reading）、書く力（Writing）の4つの領域から成り立っています。このうちListeningとSpeakingは音声言語の分野に属し、ReadingとWritingは文字言語の分野に属しています。
また、別な観点から見ますと、ListeningとReadingは聞くと読むとの違いはありますが、いずれも「理解」を目的としています。これに対して、SpeakingとWritingは話すと書くとの違いはありますが、いずれも「表現」を目的としています。
英語能力を判定するためには、この4技能を注意深く、万遍なく観察することが必要です。
しかし現実には、受験者の数が少ないときはいいのですが、その数が何千人、何万人ということになると、費用的・時間的にはほとんど不可能になります。特に、表現を扱うSpeakingとWritingは評価基準がどうしても主観的になりますので、膨大な数の受験生の評価基準を完全に統一するということは至難の業です。これに対して、理解を扱うListeningとReadingの評価基準は客観テストによって、比較的容易に設定することができます。
ただし、ここで問題になるのは、理解と表現との相関関係、つまりListeningとSpeakingとの相関関係、ReadingとWritingとの相関関係です。
TOEIC Testを開発・実施するに当たっては、種々の実例・検証調査を行ってきています。その結果、ListeningテストスコアとSpeaking能力との相関係数は0.83、ReadingテストスコアとWriting能力との相関係数も0.83という数字を得ました。これらの相関係数は十分に満足すべき数字です。
ListeningテストスコアからSpeaking能力、ReadingテストスコアからWriting能力を総合的に測定することができるように設計されています。
ListeningスコアとReadingスコアを合計したものが、トータル・スコアです。トータル・スコアは全体の英語能力を示し、セクション・スコアはそれぞれ音声言語能力と文字言語能力を示しています。

点数評価基準

合格、不各格といった評価基準とは違って、点数表示による評価基準は非常な厳密さを要求されます。入学試験のような選抜試験では、上から何名と定員まで選べばいいのですから、事は簡単です。これは、いわゆる相対評価基準です。
これよりもむずかしいのは、合格、不合格を絶対評価基準で決定する場合です。たとえば、医師国家試験がこれに当たります。医業に携わることができる知識、経験基準というものを設定し、この基準に合った者のみを合格させるというのが絶対評価基準です。絶対評価基準によるテストは、何回目のテストであれ評価基準が絶えず同一でなければなりません。
しかし、これは理論上のことで、実際には評価基準はテストによって多少変動するものと考えられます。
これよりもさらにむずかしいのは点数表示による絶対評価基準です。たとえば、あるときに50点を取って、そのまま英語力に変動がない場合には、2年後に別のテストを受けても50点になるというような評価基準です。
ただし、完全な評価基準を作ることは現実的には不可能です。というのは、同じ問題を出すというのならともかく、テスト問題は毎回変えていかなければなりませんから、それだけでも点数の変動は避けられません。

そこで、TOEIC Testでは、絶対評価基準に基づいて正確な統計処理を行い、誤差を考慮に入れたテスト・システムを採用しています。その結果、TOEIC Testのトータル・スコアの誤差は±25点という数字になっています。
たとえば、1回目のテストに400点を取り、2回目のテストに375点、3回目のテストに425点を取ったとしますと、この最低375点と最高425点の差は50点ですから±25の誤差の範囲に入ります。別な言い方をすれば、この人の英語力には変化がないとみなさなければなりません。
しかし、4回目のテストに460点取ったというのであれば、これは明らかに進歩したことになります。
このようなことを、初期学習レベルから高レベルまで、トータル・スコア 10〜990点までの範囲で1つのテストでできるということは、受験者個人にとっても、受験させる側の企業、学校などにとっても大変役に立つことです。

インタビューテスト

TOEIC TestはListeningとReadingの理解力を調べることにより、SpeakingとWritingの表現能力をも合わせた4技能を評価しようというものですが、特にSpeaking能力を直接評価して欲しいという要望に応えてインタビュー・テストを実施しています。
ただし、希望者全員というわけではなく、年6回の公開テストでTOEIC Testトータルスコアが730点以上の人々を対象にしています。730点というのはかなりの高点ですが、実際に業務上その他の理由で、念には念を入れて直接評価を必要とする層は730点以上であろうとの考えに基づいています。
730点以上のスコアを得た人々には、スコアレポート送付時にTOEIC運営委員会から案内書が郵送されますから、希望者は改めて受験科を添えて、インタビュー・テストを申し込むことができます。
インタビュー・テストはETSのトレーニングを受け認定されたネイティブスピーカーのインタビュアーによって、ひとりひとりの受験者について行なわれます。インタビューの時間は約20〜25分です。インタビューは、試験を受けるといった雰囲気ではありません。インタビュアーと1対1のフリーカンバセーション形式で行われます。
話の流れとともに、話題は当然各方面にわたります。くつろいだ雰囲気と話題の中で、インタビュアーは、受験者の表現能力(Speaking)と聴取能力(Listening)を観察・評価するわけです。
インタビューの評価は、0、0+、1、1+、2、2+、3、3+、4、4+、5の11段階評価となります。0が最低で5が最高です。
レベル0からレベル5までの評価基準は次の通りです。

レベル0(言語運用能力ゼロ)

話し言葉の運用能力がない。
話すときには単語をポツポツという程度。基本的には伝達能力がない。

レベル0+(暗記レベルの運用能力)

事前に学習した表現を使って直接のニーズを満足できる。表現の自主性や柔軟性、既応性はほとんど見られない。暗記した言葉や決まり文句を使ってのみ、ある程度正確に、質問や陳述ができる。自分の言葉では話そうとしても、たいていはうまくいかない。

レベル1（初歩レベルの運用能力）

最小限の人付き合いに必要なニーズを満たし、熟知している話題についてならばごく簡単な対話ができる。話し言葉の運用能力はあるが限定される。誤解は頻繁に起こるが、面と向かった会話であれば助けを求めたり理解を確認したりすることができる。予め学習していなければ、連続的な会話をすることができない。ネイティブ・スピーカーがこのレベルの人の陳述や質問を理解するためには、簡単なものでもかなりの努力を要し、社会常識を駆使しなければならない。

レベル1+（初歩的レベルの運用能力上級）

面と向かった会話で予測可能な話題であれば、主導し持続することができ、限られた範囲内の社交ニーズを満足できる。しかし、その社会特有の事情を反映した会話はほとんど理解できない。簡単な話であっても、理解するためには大変な努力が必要であり、社会常識を使わなければならない。このレベルの人は語学的下地が不足しているために、躊躇したり話題を変えたりしなければならないこともある。言語の範囲や掌握力は限られている。話は短く、細切れの表現をつなぎ合わせることが多い。

レベル2（限定業務レベルの運用能力）

日常の社交・限られた範囲の業務を満足できる。限られた範囲の日常業務についてのやりとりをすることはできる。より複雑で高度な業務においては、概してネイティブ・スピーカーに意味理解の上で混乱を与える。ごく通常の頻度の高い社交的会話の場合には、日常の話題であれば、ちょっとした話なら幅広く、楽にではないが自信を持ってこなすことができる。業務・家族・自分のことについても話すことができる。このレベルの人の会話には、最低レベルではあるがまとまりが認められる。構文はだいたいあまり複雑ではなく、完全に制御されているわけでもない。誤りが多発する。語彙の使用は、よく使われるものについては適切だが、それ以外では、不適切だったり不正確だったりする。

レベル2+（限定業務レベルの運用能力上級）

常にというわけではないが、しばしば言語使用を伴う業務を適切かつ効果的に遂行することができる。特に関心のあることや専門分野に関する話題であれば、かなり効果的に意志の疎通を図ることができる。相当流暢に、また楽に話せることが多いが、緊張したりプレッシャーを与えられたりすると、効果的に言語を使う能力は低下する。このレベルの人の会話は厳密には不正確とは言えないとしても、思想の表現がぎこちなかったり不正確であったり、場所・時間・人に関する記述が間違ったりすることに、ネイティブ・スピーカーはたびたび気づく。

レベル3(総合業務運用能力)

構文もかなり正確に、またかなりの語彙を使って英語を話すことができ、日常・社交・専門のいずれの話題についても、改まった会話・くだけた会話のほとんどいずれにも効果的に参加できる。それでもなお、業務上の言語使用は、共用理解の話題・国際会議に関することなどに限られる。会話にはまとまりが認められる。使用される言葉は適切だが、ときどき不完全さが認められる。しかし、誤りはあっても事実上理解の妨げとなることはなく、ネイティブ・スピーカーに混乱を与えることはまずない。自分の言いたいことを正確に伝えるために、構文や語彙を効果的に組み合わせることができる。進んで話し、適度に間を空かせないで話すことができる。発音は、明らかに外国人のものとわかる。個々の発音は正確であるが、アクセント・イントネーション・声の高さの使い方に誤りが見られる。

レベル3+(総合的業務運用能力上級)

広範囲にわたる複雑かつ高度な業務においても、専門的レベルでニーズを満足させることができる。

レベル4(上級業務レベル運用能力)

ふつう専門家に求められるあらゆるレベルの英語を、流暢かつ正確に使うことができる。言語の用法・運用能力は完全に満足できる。修辞的技巧の使用・対象言語の文化的背景の知識・理解力を駆使して、会話を進めることができる。言語能力が原因で言語を必要とする業務の遂行を妨げることはまずない。しかし、ネイティブ・スピーカーだと思われることはまずない。努力を必要とせずに楽に話し、個人的・専門的分野において責任の範囲内で、あらゆる表現目的に対して、非常に効果的に、信頼性も高く、正確に言語を使用することができる。予測不可能な状況であっても、簡単な通訳を務めることができる。高等教育を受けたネイティブ・スピーカーのほとんどの関心事に関する事柄、自分の専門に直接関係しない業務も含めた広範囲で高度な言語で業務を行うことができる。

レベル4+(上級業務レベル運用能力の上級)

話す能力はすべての点にわたって極めて優れており、高等教育を受けたネイティブ・スピーカーとほぼ同等である。言語能力が原因で言葉を使用するいかなる業務の遂行も妨げることはない。しかし、文化的にネイティブ・スピーカーだとは必ずしも見られない。

レベル5(機能的にネイティブスピーカーと同様の運用能力)

話す能力は、高度な話のできる高等教育を受けたネイティブ・スピーカーと機能的に同等であり、対象言語が母国語として話されている国の文化水準を反映している。完全な柔軟性と直感力をもって言語を操るので、どのレベルの話も、語彙やイディオムの幅、口頭表現、関連する文化的背景を含むあらゆる点で、高等教育を受けたネイティブ・スピーカーが完全に理解することができる。発音は、変ななまりのない高等教育をネイティブ・スピーカーのそれとほぼ一致している。

■ 本ソフトの使いかた

本節では、本ソフトの実際の使いかた、操作のしかたについて説明します。

本ソフトを起動するには

1. l'agendaの電源を切り、カードスロットにCFカードを挿入します。
   - 自動的に電源が入ります。
2. トップメニューボタン を押します。
   - 専用メニュー画面が表示されます。
3 l'agendaにヘッドホンを接続します。
4. 「TOEIC®Test学習ソフト実力UP編」または「TOEIC®Test学習ソフト完全制覇編」をタップします。
   - 本ソフトのメニュー画面が表示され、学習を開始することができます。



メニュー画面

- メニュー画面で、開始したい練習問題(プラクティス、テスト、診断テストのいずれか)に応じたボタンをタップすることで、すぐに学習を開始することができます。詳しくは「学習をはじめよう」(19ページ)を参照してください。
- メニュー画面では、l'agenda本体のボタンを使って各種の操作を行うことができます。詳しくは「各画面上でのl'agenda本体ボタン操作について」(25ページ)を参照してください。

ご注意

- l'agendaのバージョンアップソフトはWeb上からダウンロードできますが、新たにVer1.01のTop Menuをインストールしてしまうと専用メニューが表示されなくなり、本ソフトが使用できなくなります。再び本ソフトを使用する場合には、同梱のCFカードを挿し、Top Menuのカードタブ側に現れる「セットアップ」を実行してください。本ソフトの専用メニューが再びインストールされます。
- 本ソフトを実行している時は、CFカードを絶対に抜かないでください。CFカードの抜き差しは、必ずソフトを終了し、電源をOFFにしてから行ってください。

本ソフトの構成

本ソフトは、実力を診断するための「診断テスト」と、TOEIC Testのパートごとに学習できる「プラクティス」および「テスト」から構成されています。

「診断テスト」	いわばTOEIC Testの簡易版で、約40分で終了します。TOEIC Testの7パートすべてを通しで行うようになっているので、模擬テストとしてご利用いただけます。実際のTOEIC Testは200問であるのに対して、診断テストでは全部で73問に回答するようになっています。また「診断テスト」のレベルは、目標スコア400点、500点、600点、700点の4段階から選ぶことができます。目標スコアの設定については、「目標設定について」(29ページ)を参照してください。
「プラクティス」	TOEIC Testの7パートそれぞれを、別々に練習することができるようになっています。TOEIC Testの各パートの出題方法に慣れるのに適しています。「プラクティス」では、リスニング問題で、出題の音声を何度でも繰り返し聞き直すことが可能です。また、「プラクティス」には、Low、Middle、Highの3つのレベルが用意されています。Highレベルが実際の試験と同じレベルで、Middle、Lowの順にやさしい問題になっていきます。ただし、問題の形式や性格上、パート2のLowレベル、パート5と6のLow、Middleレベルは用意されていません。 プラクティスのレベル設定については、「目標設定について」(29ページ)を参照してください。
「テスト」	TOEIC Testの7パートそれぞれを別々に練習することができるという点では、「プラクティス」と同じです。ただし、リスニング問題での音声の読み上げは、実際のテストの場合と同じ1回だけとなっています。

本ソフトでの学習を始めるにあたっては、まずはじめに「診断テスト」で実力を測定し、どのパートが弱点かをチェックすることをお勧めします。「診断テスト」の結果に応じて、「プラクティス」や「テスト」を使って苦手なパートを重点的に学習することができます。
ただし「診断テスト」は約40分かかりますので、短時間での練習から始めたい場合や、まずはTOEIC Testの設問形式に慣れたい場合には、「プラクティス」から始めると良いでしょう。

問題の構成

本ソフトの問題数は、以下の通りです。

●実力アップ編

	プラクティス			テスト
	Low	Middle	High	診断テスト
Part1 写真描写	40	20	20	20
Part2 応答		20	20	30
Part3 会話	40	20	20	30
Part4 説明文	40	20	20	20
Part5 文法・語彙			20	40
Part6 誤文訂正			20	20
Part7 読解	40	20	20	40
小計	160	100	140	200
合計				600

●完全制覇編

	プラクティス			テスト
	Low	Middle	High	診断テスト
Part1 写真描写	20	40	40	20
Part2 応答		40	40	30
Part3 会話	20	40	40	30
Part4 説明文	20	40	40	20
Part5 文法・語彙			60	40
Part6 誤文訂正			30	20
Part7 読解	20	40	40	40
小計	80	200	290	200
合計				770

学習をはじめよう

ここでは、本ソフトを使った学習のしかたを、「プラクティス」「テスト」「診断テスト」のそれぞれについて説明します。

MEMO

- メニュー画面(16ページ)や、この後説明するディレクション画面、設問画面などの各画面では、l'agenda本体のボタンを使った操作ができます。スタイラスを使わなくても学習を進めることができるので、電車などでの移動中などの操作も容易に行うことが可能です。詳しくは、「各画面上でのl'agenda本体ボタン操作について」(25ページ)を参照してください。
- 学習をはじめる際は、l'agendaにヘッドホンを接続してください。ヘッドホンの接続のしかたについては、l'agendaに付属のユーザーズガイドを参照してください。
- 音量の調節については、「音量を調節するには」(28ページ)を参照してください。

プラクティスをやってみよう

「プラクティス」は、TOEIC Testのパートごとの出題形式に慣れるための練習問題です。Low、Middle、Highの3つのレベルがあり、Highレベルが実際の試験と同じレベルで、Middle、Lowの順にやさしい問題になっていきます。

プラクティスは、次の手順で行います。

1. プラクティスの目標を設定します。
   - メニュー画面で[目標設定]ボタンをタップします。表示されるダイアログの「プラクティスレベル」の中のLow、Middle、Highのいずれかのボタンをタップし、[OK]をタップします。プラクティスのレベルが、画面の右上に表示されます。

   ※ Lowレベルを選択した場合は、パート2、5、6の設問はありません。またMiddleレベルを選択した場合は、パート5、6の設問はありません。「本ソフトの構成」(17ページ)を参照してください。

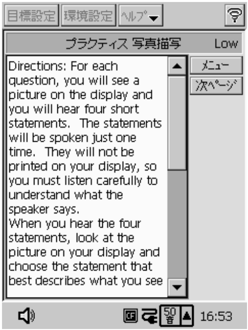
2. プラクティスを開始します。
   - 開始するパートに対応したプラクティスのボタンをタップします。

例えば、パート1の「写真描写」問題のプラクティスをはじめたい場合は、このボタンをタップします。



3. ディレクションを聴きます(読みます)。

- それぞれのパートを開始すると、はじめに設問に関するディレクション(問題形式と回答のしかたの説明)が行われます。以下はパート1の場合のディレクションの例です。



→



- ディレクション画面は、パートによって上記のように2画面ある場合と、1画面だけの場合があります。
- ディレクション画面上では、次の操作ができます。
  [メニュー] ..... メニュー画面に戻ります。
  [次ページ] ..... ディレクション画面が2画面ある場合に、次の画面に移動します。
  [前ページ] ..... ディレクション画面が2画面ある場合に、前の画面に移動します。
  [解答開始] ..... プラクティス問題の解答を開始します。

※ ディレクション画面に表示される解答ボタン([A]～[D])は設問説明のために表示されているだけですので、タップしても反応しません。

4. 設問に回答していきます。

- ディレクションが終わると、実際の設問がはじまります。順次設問への回答を行ってください。
- プラクティスの設問の画面は、例えば以下のような表示になります。

現在の設問番号／プラクティスの総設問数が表示されます。



現在解答中の設問パート名とプラクティスのレベルが表示されます。

- プラクティスの設問画面上では、次の操作ができます。

［メニュー］..... 中断画面が表示され、画面上の［メニューへ戻る］をタップするとメニュー画面に戻ります。中断画面で［中断問題から再開する］（または［×］）をタップすると、元の画面に戻ることができます。

［次問題］....... 現在表示中の設問をスキップして、次の問題に移動します。

［前問題］....... ひとつ前の問題に戻ります。

［もう一回］..... 現在表示中の設問を、最初からもう一回やり直します。

［再生］......... リスニング問題の場合、設問の読み上げを最初からもう一度行います。

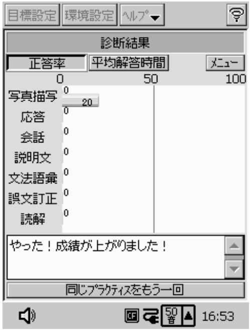
［A］～［D］...... いずれかのボタンをタップして、解答を選びます。
プラクティスでは、正解、不正解に応じて以下のように表示されます。

正解の場合	
不正解の場合	

5. 所定の問題数に回答すると、そのパートのプラクティスが終了します。
   - メニュー画面では、今行ったパートのボタンに、正答率を表すゲージが表示されます。



6. プラクティスの診断結果を表示します。



- 診断結果画面上では、次の操作ができます。
  ［正答率］....... 正答率をバーグラフに表示します。
  ［平均解答時間］. 1問の解答にかかった平均時間をバーグラフに表示します。
  ［メニュー］..... メニュー画面に戻ります。
  ［同じプラクティスをもう一回］
  ...... もう一度同じプラクティスを行います。

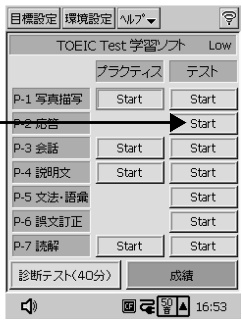
7. この後もプラクティスを続けたい場合は、診断結果画面で［メニュー］をタップしてメニュー画面に戻り、手順2からの操作を行ってください。
   - プラクティスのレベルを変更したい場合は、手順1から操作してください。
   - テストに進みたい場合は、次の「テストをやってみよう」を参照してください。
   - 診断テストに進みたい場合は、24ページを参照してください。

テストをやってみよう

「テスト」では、TOEIC Testと同じ出題形式・同等並みのレベルの模擬試験を、パート別に行うことができます。テストは次の手順で行います。

1. テストを開始します。
   - 開始するパートに対応したテストのボタンをタップします。

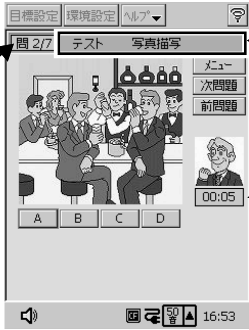
例えば、パート2の「応答」問題のテストをはじめたい場合は、このボタンをタップします。



2. ディレクションを聞きます(読みます)。
   - ディレクション画面での操作は、プラクティスの場合と同様です。20ページの手順3を参照してください。

3. 設問に回答していきます。
   - ディレクションが終わると、実際の設問がはじまります。順次設問への回答を行ってください。
   - テストの設問の画面は、例えば以下のような表示になります。

現在の設問番号／テストの総設問数が表示されます。



現在解答中の設問パート名が表示されます。

経過時間が表示されます。

   - テストの設問画面上では、次の操作ができます。

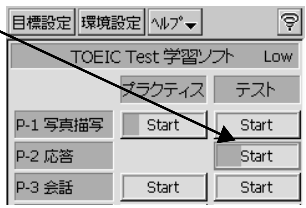
［メニュー］..... 中断画面が表示され、画面上の［メニューへ戻る］をタップするとメニュー画面に戻ります。中断画面で［中断問題から再開する］(または［×］)をタップすると、元の画面に戻ることができます。

［次問題］....... 現在表示中の設問をスキップして、次の問題に移動します。

［前問題］....... ひとつ前の問題に戻ります。

［A］～［D］...... いずれかのボタンをタップして、解答を選びます。解答を選ぶと、自動的に次の設問に移動します。

4. 所定の問題数に回答すると、そのパートのテストが終了します。
   - メニュー画面では、今行ったパートのボタンに、正答率を表すゲージが表示されます。



5. テストの診断結果を表示します。
   - 診断結果画面上では、次の操作ができます。
     [正答率] .... 正答率をバーグラフに表示します。
     [平均解答時間]. 1問の解答にかかった平均時間をバーグラフに表示します。
     [メニュー] ..... メニュー画面に戻ります。
     [同じテストをもう一回]
     ...... もう一度同じテストを行います。

6. この後もテストを続けたい場合は、診断結果画面で[メニュー]をタップしてメニュー画面に戻り、手順1からの操作を行ってください。
   - プラクティスに戻りたい場合は、19ページを参照してください。
   - 診断テストに進みたい場合は、次の「診断テストをやってみよう」を参照してください。

診断テストをやってみよう

「診断テスト」では、TOEIC Testと同じ出題形式・同等並みのレベルの模擬試験を、TOEIC Testの全パート(パート1からパート7まで)通しで行います。診断テストには、約40分かかります。診断テストは次の手順で行います。

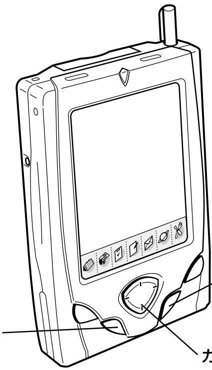
1. 診断テストの目標を設定します。
   - メニュー画面で[目標設定]ボタンをタップします。表示されるダイアログの「目標スコア」の中の400〜700のいずれかのボタンをタップし、[OK]をタップします。ここで設定した目標スコアは、手順6の診断結果表示に反映されます。
2. 診断テストを開始します。
   - [診断テスト(40分)]ボタンをタップします。
3. ディレクションを聞きます(読みます)。
   - ディレクション画面での操作は、プラクティスの場合と同様です。20ページの手順3を参照してください。
4. 設問に回答していきます。
   - 設問画面での操作は、テストの場合と同様です。23ページの手順3を参照してください。
5. 診断テストの結果を表示します。
   - メニュー画面で[成績]ボタンをタップすると、診断結果が表示されます。
   - 診断結果画面上では、次の操作ができます。
     [正答率] .... 正答率をバーグラフに表示します。
     [平均解答時間]. 1問の解答にかかった平均時間をバーグラフに表示します。
     [メニュー] ..... メニュー画面に戻ります。

各画面上でのl'agenda本体ボタン操作について

メニュー画面(16ページ)や、プラクティス／テスト／診断テストのディレクション画面、設問画面などの各画面では、l'agenda本体のボタンを使った操作ができます。スタイラスを使わなくても学習を進めることができるので、電車などでの移動中などの操作も容易に行うことが可能です。

本体ボタンによる操作の基本

l'agenda本体のボタンを使った操作は、l'agendaのカーソルボタン、OKボタン、ESCボタンを使って行います。



カーソルボタン(またはESCボタン)を使って、本ソフトの各画面上での操作対象(「フォーカス」と呼びます)を移動し、OKボタンを使ってフォーカスのあるボタンを「押す」操作を実行したり、カーソルの上下ボタンを使ってフォーカスのあるフィールドをスクロールすることができます。

例えばメニュー画面では、以下のように操作することができます。

1. メニュー画面を表示します。
   - フォーカスは、ボタンの枠囲いによって表示されます。

現在フォーカスのあるボタン



2. カーソルボタンを使って、フォーカスを移動します。
   - フォーカスは、カーソルの左右ボタンを押すと画面上の左右のボタンの間で、上下ボタンを押すと画面上の上下のボタンの間で移動します。

3. 押したいボタンにフォーカスが移動したら、OKボタンを押します。

メニュー画面での操作

メニュー画面上では、l'agenda本体のボタンを使って次の操作ができます。

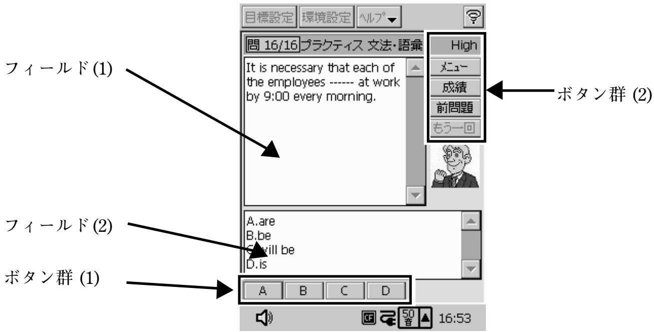
- フォーカスの移動
  カーソルボタンでボタンのフォーカスを移動することができます。
  プラクティス、テストの各パートボタン、および[診断テスト][成績]ボタンの間でフォーカスを移動します。上下カーソルボタンで、画面上の上下のボタンの間でのフォーカス移動、左右カーソルボタンで、画面上の左右のボタンの間でのフォーカス移動が行われます。

- 現在フォーカスのあるボタンの機能の実行
  OKボタンを押すと、現在フォーカスのあるボタンの機能が実行されます。

ディレクション画面／設問画面での操作

ディレクション画面および設問画面上では、画面の構成に応じたl'agenda本体ボタン操作ができます。

- フォーカスの移動
  カーソルボタンとESCボタンを使って、ボタンやフィールドのフォーカスを移動することができます。
  例えば以下の例のように、画面上に2つのフィールドと2群のボタンがある場合は、次の要領でフィールドおよびボタンの間でフォーカスを移動できます。



ESCボタン .... 押すごとに、フォーカスを「フィールド (1)」→「フィールド (2)」→「ボタン群 (1) の[A]ボタン」→「ボタン群 (2) の[メニュー]ボタン」の間で移動します。

スクロールボタン .... フォーカスがボタン群 (1) のいずれかのボタン上にあるときは、左右ボタンを使ってボタン群 (1) の中でフォーカスを移動できます。
また、フォーカスがボタン群 (2) のいずれかのボタン上にあるときは、上下ボタンを使ってボタン群 (2) の中でフォーカスを移動できます。

- フィールドのスクロール
  フォーカスがいずれかのフィールドにある場合は、カーソルの上下ボタンを使って、現在フォーカスのあるフィールドをスクロールすることができます。

- 現在フォーカスのあるボタンの機能の実行
  OKボタンを押すと、現在フォーカスのあるボタンの機能が実行されます。

MEMO

フォーカスの移動につかうl'agenda本体のボタンは、画面の構成によって異なります。一般に、次のような操作となります。

- 画面上にボタンだけがある場合
  複数群のボタンが画面上にある場合は、それらの間でのフォーカス移動にESCボタンを使います。ボタンが1群しかない場合は、カーソルボタンのみで移動ができます。
- 画面上にフィールドとボタンがある場合
  ボタンとフィールドの間でのフォーカス移動に、ESCボタンを使います。複数群のボタン、複数のフィールドが画面上にある場合は、それらの間でのフォーカス移動にESCボタンを使います。
- ボタンにフォーカスがある場合のフォーカス移動
  横に並んでいるボタンのいずれかにフォーカスがある場合は、カーソルの左右ボタンでフォーカス移動ができます。縦に並んでいるボタンのいずれかにフォーカスがある場合は、カーソルの上下ボタンでフォーカス移動ができます。

本ソフトの各種設定

ここでは、本ソフトの各種設定について説明します。

音量を調節するには

音量の調節はメニュー画面で行えるほか、プラクティス、テスト、または診断テストの開始後も随時行うことができます。

音量を調節するには、コマンドバーに表示されているをタップしてください。

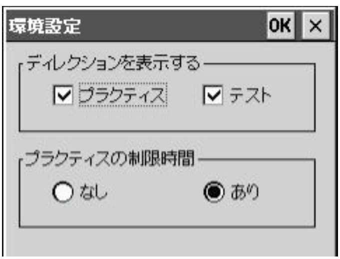
環境設定を行うには

「環境設定」では、次の設定を行うことができます。

- プラクティスまたはテストを行う際に、ディレクションを表示するか、しないか
- プラクティスを行う際の設問ごとの制限時間を設けるか、設けないか

環境設定を行うには、次の手順で操作します。

1. メニュー画面で[環境設定]をタップします。
   - 以下のような環境設定画面が表示されます。



2. 環境設定画面で好みの設定を行います。

3. [OK]をタップします。
   - 環境設定画面が閉じて、設定が保存されます。
   - 設定を変更せずに画面を閉じたい場合は、[×]をタップしてください。

目標設定について

「目標設定」では、次の設定を行うことができます。

- プラクティスのレベル（Low／Middle／Highの3レベルから選択可）
  詳しくは「プラクティスをやってみよう」(19ページ)の手順1を参照してください。
- 診断テストの目標（400／500／600／700点の4通りから選択可）
  詳しくは「診断テストをやってみよう」(24ページ)の手順1を参照してください。

MEMO

MEMO

カシオ計算機株式会社

〒151-8543　東京都渋谷区本町1-6-2

PN411750-001　MO0208-002005A　Printed in Japan

再生紙を使用しています。